



栗田運輸株式会社  
社長  
栗田浩平さん (写真左)  
(右、営業担当の日本フルハーフ東京支店、喜多康正主査)



フルハーフコートを施工した栗田運輸の3t車。あまり期待していなかったものの、期待以上に臭いが取れ、ドライバーさんも「違いますね、コレ」と太鼓判

ドライバーも『違いますね、コレ』っていうくらい明確に体感しています。運ぶ荷物に臭い移りしないのなら、車両の取り回しの自由度も増すと思います。荷物の積載効率であったり、あるいはルートの効率もよくなるはず。『ここのお客さんの荷物は臭いが出るので、クルマは近くにいるけれど行けない』というのがなくなるのは配車にとってもメリットです。それこそ2024年問題で経営環境が厳しくなる中で、効率よく仕事ができるようになって適正な運賃の収受ができるようになれば、こんな嬉しいことはありません。その意味では『臭い』は、地味で小さな問題に見えるかもしれませんが、私どもにとっては大きな問題です。それを解消してくれる製品なら今後とも積極的に導入していきたいと思っています。



東京都江戸川区にある栗田運輸の本社。右手にある建屋も同社の冷凍冷蔵倉庫

## 隠れた大問題「臭い」を解消 2024年問題にも効果あり

—— 次に話を聞いたのは、東京都江戸川区にある栗田運輸（株）の栗田浩平社長である。1961年創業の栗田運輸は冷凍・冷蔵品の配送および一時保管が主な業務だ。同社の保有台数は64台。内訳は4t車が10台、3t車が54台で、すべて冷凍冷蔵車だ。栗田運輸には、本社や大井センターに冷凍冷蔵倉庫があり、メーカーから預かった荷物を問屋に卸したり、豊洲市場から鮮魚を積んでセンターなどに運んだり、あるいはスーパーや量販店などの店舗配送も行っている。早速「臭い」の話を聞いてみた。

「私は倉庫で現場作業をしていたことがあるのですが、特に夏場などに魚を積んで最後に野菜を積んで帰ってくると、荷箱の中が本当にイヤにならないくらい臭いなんです。うちのドライバーも庫内の洗浄をしますが、よく洗浄しても『少しはマシ』なレベルです。最近臭い問題で仕事が1つ飛んじやいました。魚を積んで、次の積み場に行って、荷箱を開けてバースを開けたら、『魚臭くて駄目だ。お前はもう来なくてくれ』と言われてしまいました。ですから、臭い問題は本当に切実な問題なんです。そんな時、フルハーフさんから勧められたのがフルハーフコートでした。新車を入れる際に『試験的に施工させてください』というので、『いいですよ』と……。それが2年前の話で、3t車2台に4t車1台の計3台に施工してもらいました。正直言って「効果があったらラッキー」くらいの気持ちで、あまり期待していなかったのですが、期待以上でしたね。ドラ

## プレミアムフルハーフコート消臭性試験結果

日本フルハーフでは、フルハーフコート施工した車両の庫内の清浄度を定期的に検査している。この検査によって菌の増殖が抑えられていることが判明しており、抗菌効果があることが確認されている。ちなみにハイブリッド触媒の採用例は、大手航空会社、大手紳士服メーカー、ユニフォームメーカーをはじめ、スポーツジムや学生レジデンス、公共交通の電車やバスなどに広がっている。



# FRUEHAUF Fan

2024 Vol.16

[フルハーフ・ファン]

特集 ユーザーの声で綴る圧倒的な消臭効果

## プレミアムフルハーフコート



フルハーフコートを施工した丸丸運送の3.5tウイング冷蔵冷蔵車



ドライバーさんにとって負担が大きい庫内洗浄 (写真は栗田運輸)



定期的に行なわれる庫内の清浄度検査



## フルハーフコートの技術的な要「ハイブリッド触媒」とは？

冷凍車をはじめバン型車は庫内に臭いがこもり、また、衛生管理にも注意が必要である。ただ、庫内の消臭にはこれまでさまざまな手法が用いられてきたが、実はこれといった有効な手段がなく、長年隠れた課題となっていた。日本フルハーフの「プレミアムフルハーフコート」(以下フルハーフコート)は、その消臭に長期的に効果を発揮する画期的な商品である。では、一体どういった商品なのか、日本フルハーフ開発第一部新商品開発グループの塩見隆児主査に話を聞いた。

「フルハーフコートは、ハイブリッド触媒と呼んでいますが、鉄イオン触媒の強力な酸化力を利用して、細菌、臭いの原因物質を破壊・分解する抗菌・消臭機能材になります。ハイブリッド触媒は、大学との連携研究体制により開発されました。それをラーフェイドという施工技術により、的確にコーティングすれば長期間にわたり消臭・抗菌効果が維持できます。トラックは積み荷として、魚、肉、野菜、ケーキ、パン、乳

製品、卵液、あるいはプラスチック製品など臭いのあるものをよく運びますし、新車臭と呼ばれる溶剤の臭いもあります。タバコの臭いなど一部苦手なものもありますが、多種多様な臭いの消臭に効果を発揮します。

フルハーフコートは、庫内の壁や天井、床など全面にスプレーガンで塗布するのですが、ハイブリッド触媒は99.9%以上が水でできているので、手にかかっても大丈夫で、極めて安全性が高い。荷物が直接触れるものや場所に塗布するわけですから、安全性の確保は重要です。このため、第三者検査機関において安全性評価基準への適合を確認しています。たとえば、『急性経口毒性試験』『復帰突然変異試験』『皮膚刺激性試験』『皮膚感性試験』『皮膚貼付試験』、さらに『染色体異常試験』まで実施しています。その結果、まったく問題がないことを確認しています。



営業品目：  
ドライバン、温度管理車、ウイングレーフ、各種トレーラ、各種コンテナ、省力機器、サービス

日本フルハーフ株式会社

web・SNSにて、最新情報を随時お届けしています。



庫内の「臭い」に悩むユーザーが太鼓判!!

# 「フルハーフコート」の消臭力は本物だ!



フルハーフコートを施工したハンコウの中型車の庫内。臭いを気にせず帰り荷にいろいろなものを積めるようになったという



ハンコウ株式会社  
会長  
五十嵐政勝さん

## 食肉を扱うハンコウが太鼓判 本当に臭いがしない!!

—— 最初にお話を聞いたのは、大阪市大正区で食肉・食品卸を中心に運送全般を担っているハンコウ（株）の五十嵐政勝会長だ。創業は1961年で、保有車両は現在21台。うち4台が中型で、残りはすべて小型である。早速、気になる「臭い」の話を聞いてみた。

「私どもでは主に冷凍車で豚の内臓を運んでいるのですが、なにしろ臭いがキツイ。そこで消臭を売りにする用品や装置などをいろいろ試してみたのですが、その日はいつか臭いが消えますが、翌日になると元に戻ってしまう。もちろん、毎日庫内を高圧洗浄していますよ、それでも臭いは取れない。何をしても駄目なので、ほとんどあきらめかけていたのですが、2年ほど前、営業さんからフルハーフコートを勧められました。これまでの経験が経験だから、初めは胡散臭いと思いましたよ（笑）。ちょこっと庫内に塗たくらいで臭いが取れるはずがない。でも、熱心に勧めてくれるので、まず中型車に施工してもらいました。既存車だったので1日半くらいかけて完全に洗浄しま



フルハーフコートを施工した中型車は既存車だったので、前段階の洗浄と乾燥には時間をかけたこと

したが、フルハーフコート自体の施工は2時間くらいだったと思います。そうしたら本当に臭いがしないんですよ。普段だったら、慣れている我々でもリアドアを開けたときにウッ! っていうくらい臭いがするの、それがほとんどしない。これは良い製品だと思いました。引き続き小型の新車にも施工してもらいました。今までは、帰庫したクルマは2~3時間かけてデッキブラシを使って徹底的に洗浄していましたが、施工したクルマは高圧洗浄で洗い流すだけなので、せいぜい30分程度。洗浄はドライバーさんがやっていますが、ずいぶん楽になったと思います。もう一つは、臭い移りしないので、帰り荷にいろいろな物を積めるようになりました、今は運送会社にとって厳しい時代なので、冷凍車で常温物を運ぶなどさまざまな荷物を積み合わせができるのは助かる。クルマの稼働率も上がるから、消臭ってトラックにとって意外と重要だと思います。



株式会社丸力輸送  
代表取締役  
片伯部章代さん  
部長  
大川哲也さん

## 「臭い」との長い戦いの末に巡りあった 本当に効果がある製品

—— 続いて訪れたのは1980年創業の（株）丸力輸送で、今回は業務の中心地である大阪中央市場で取材させていただいた。お話を聞いたのは片伯部章代代表取締役と大川哲也部長である。丸力輸送の仕事は、鮮魚など生鮮食品の配送と量販店のセンターへの配送が半々ほど。18台の保有車両は4t車が5台、あとは3t車と2t車だ。

「魚は朝一番に積むので、臭いが残っているとその後の仕事に支障をきたします。魚のぬめりの臭いはちょっとやそつではなかなか

取れない。もちろん、これまでにいろいろ試しましたが、結論として、臭いに関しては何をやっても無理やと思っていたのです。ですからフルハーフさんに勧められても、『嫌や、無理や』と言っていたのですが、遂には根負けしました。そこで新車を入れるときに、『勝手にせえよ、好きにしてくれ』といったのですが、考えてみれば、向こうはクルマの専門家だし、金属が腐食するようなダメージにはならんやろ。少しでも臭いが薄まれば御の字とっていました。しかし、使ってみたら本当にびっくりするくらい効果がありました。自分にしたら、『本当にこういうことってあるんだな』という感じでしたね、ドライバーに聞いても、確かに臭いが取れていると言います。フルハーフコートの効果は7年以上続くと言いますが、まだ2年目なのでそれは見極めたいですね。

丸力輸送のフルハーフコートを施工した車は、ウイングボディの3.5tのパワーゲート付き冷凍冷蔵車で、どんな仕事や荷物にも対応できるよう、かなり充実した仕様である。ステンレスも多用しているのだが、それは臭いや錆に強くし、できるだけ長く効率的にクルマを使いたいからだという。丸力輸送では、今後新車を入れる際には極力フルハーフコートを施工する予定だ。



ハンコウと丸力輸送の営業を担当している日本フルハーフ阪神支店の緒方洋介主査（左）と山本博雅さん



フルハーフコートを施工した丸力輸送の、3.5t、ウイング冷凍冷蔵車（パワーゲート付き）。「臭い」と長い間戦ってきた大川部長は、初めは信じなかったものの、「論より証拠」にびっくり

## フルハーフコートの施工



施工動画はこちら

フルハーフコートは長期間にわたって効果が発揮しやすい新車時の施工が推奨されている。ラーフェイデの施工資格を持った人間が施工し、小型だと1時間程度、大型でも2時間程度で施工が完了する。施工後も特に気をつけることはなく、コーティングした面を水拭きしても、あるいは高圧洗浄してもフルハーフコートには影響はない。汚れがひどい時は中性洗剤を使用しても問題なく、デッキブラシでこすっても影響ない。ただ、ハイブリッド触媒は表面の素材と分子間結合しているため、強酸性や強アルカリ性の洗剤、研磨剤を含んだ洗剤類の場合は、表面の素材と一緒に削れてしまうのでNGとなる。



プレミアムフルハーフコートの施工の工程。スプレーガンで庫内の壁や天井、床などに塗布する